


健康登山31:周辺の山16 (天理 竜王山)

コース	柳本駅 1.1km/17 黒塚古墳 0.5km/9 崇神天皇陵 1.8km/46 古墳群 1.2km/62 林道出合 0.4km/13 竜王山 1.4km/25 北城跡 0.9km/19 林道 出合 2.1km/50 長岳寺 5.2km/84 石上神宮 2.7km/38 天理駅		
水平距離	17.3km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	18.1km		
累計高低差	登り777m、下り782m		
標準歩行時間	6:02		
実績歩行時間	5:50		



山行報告

山行日 2007・10・04 (木) 天候 晴れ 参加者 7名

行動 柳本駅9:45 五智堂9:53 黒塚古墳10:05 崇神天皇陵10:23 登山口10:40 古墳群  
11:03 林道出合11:55 竜王山12:09~12:52 北城跡13:14 林道出合下山口13:  
28 長岳寺トレイルセンター14:21 石上神宮15:58 天理駅16:35

記録

山の辺の道周辺の山として10月に天理駅から大国見山に登っている。その2回目として今回は柳本駅から竜王山に登った。竜王山からは長岳寺へ行く道と天理ダムへ行く道があるが、今回は柳本から崇神ルートに登り、長岳寺ルートを通して柳本へ戻った。穏やかなハイキング日和だったので長岳寺から山の辺の道を天理まで散策した。

京都駅7:51発のJRに乗車、奈良駅で桜井線に乗換えて柳本駅には9:32着。

最初に柳本駅近くにある五智堂(傘堂、真面堂とも呼ばれ地元の人は真面堂と言われた)に立ち寄り、黒塚古墳の資料館を見学した。黒塚古墳から竜王山の全景が見えた。

国道を渡り大きな崇神天皇陵の堀端を通り抜けて、一旦自然歩道と合流するがすぐに竜王山の崇神ルート登山口になる。登り始めて20分ほど歩くと右側に累々と残る古墳群が現れる。急坂を30分ほど登り続けると長岳寺奥ノ院への道標があるが、立ち寄りなかった。

そこから15分ほどで林道に出る。トイレもあり少し休んでから竜王山南城跡へ向かった。

眼下には崇神天皇陵や柳本の街並みははっきり見え、少し霞んでいたが二上山、葛城山、金剛山などの山並みも見られた。昼食後、林道出合の下山口を通り越して北城跡まで足を伸ばした。散策道も整備されているようで『春はわらび、つくし、など山菜採りもいいですよ』と天理市発行の竜王山イラストMAPに書かれている。

下山は長岳寺ルートを下りトレイルセンターで休憩させてもらった。

ここから天理までの山の辺の道は見どころ満載だが、日没の早い時期なのでどこにも立ち寄りずに歩いた。途中随所でみかんや柿が1袋100円で無人販売されていた。

この道は11月に天理から桜井まで歩いたのだが、生憎雨で景色を見られなかった。今回は秋色に染まった竜王山から大国見山に至る山並みを見ながら心地よい散策が楽しめた。

周辺の山 (天理 竜王山)



五智堂  
9:52

黒塚古墳から  
竜王山  
10:14



崇神天皇陵  
10:23

古墳群  
11:03



竜王山への登り  
11:31

竜王山にて  
12:47



北城跡へ向う  
12:55

北城跡にて  
13:14



北城跡から下る  
13:16

山の辺の道  
を歩く  
15:05



名所・旧跡ミニガイド（山の辺の道 周辺の山：天理 竜王山）

参考資料、HP / 他より

五智堂：傘堂 / どこから見ても正面なので、真面堂ともよばれている。（鎌倉重文）  
上街道（上ツ道 / 伊勢街道、初瀬街道）沿いにあり長岳寺の飛地境内である。

中央の太いケヤキの心柱を大日如来に見立て、上方に四方の如来を表わす梵字額があり、全体で五智如来を表わしている。

五智：仏の備える五種の知恵

大日（中央）、大円鏡智（東）、妙觀察智（西）、平等性智（南）、成所作智（北）

余談：二上山山麓の当麻の里に左甚五郎が建てたと云われる同形の傘堂があり三度参拝するとぼっくり安楽死するという信仰がある。

黒塚古墳：前方後円墳、古墳時代前期、130m後円部高さ 11m

平成 10 年 1 月卑弥呼の鏡といわれる、三角縁神獸鏡が 33 枚も出土した。

中世以降城郭として利用され、江戸時代は柳本藩の陣屋の一角に活用された。

併設に 2002 年 10 月開館の天理市立黒塚古墳展示館がある。

2 km 南に卑弥呼（248 年没）の墓ともいわれる箸墓古墳（西暦 260 年頃）がある。

柳本藩陣屋跡：黒塚古墳の南側、現天理市立柳本小学校になっている。

信長の末弟織田有楽斎が関が原の戦いで東軍に参戦、家康から 3 万石を貰い内 1 万石を有楽斎が取ってその江戸屋敷が有楽町で、京都で茶人として隠居する。

四男が 1 万石で芝村藩（桜井市織田小学校が陣屋跡）

五男尚長が 1 万石で柳本藩を貰い 13 代続いた。

明治維新に小学校の校舎になった。玄関と大書院は榎原神宮へ移された。

伊射奈岐神社：（柳本神社）楊本庄の総鎮守、伊邪那岐神と菅原道真を祀る。

元は崇神陵の南側にあった。文明 17 年（1485）楊本天神に合祀され、明治になって伊射奈岐神社と改められた。

裏手に全長 113m の天神山古墳がある。

崇神天皇陵：山辺道勾岡上陵（行燈山古墳）前方後円墳全長 240m

第 10 代崇神天皇、西暦 258 年没する。（卑弥呼 248 年没）

古墳は 4 世紀前半頃のもの、柳本古墳群で最大の古墳、奈良県内 7 位、国内

15 位。

死亡年から**卑弥呼の男弟王**との説も出ている。

やまとととひももそひめのみこと  
(倭迹迹日百襲姫命：生没年不明：7代考靈天皇の皇女 = 巫女 = 箸墓)  
(卑弥呼 248 年没：巫女(シャーマン) = 男弟崇神補佐 = 箸墓)

行燈山古墳と崇神天皇の年代は合わない、箸墓に一時合葬され、後に行燈山古墳に移されたと云う説もある。

御陵餅本舗：崇神天皇陵前の和菓子店

前方後円墳形の**御陵焼餅** 147 円、田舎おはぎ 147 円、が人気です。

天理トレイルセンター：「トレイル青垣」は「山の辺の道」中間点に有り周辺の史跡を紹介、休憩施設としての機能も充実している。

長岳寺：高野山真言宗、

本尊は阿弥陀如来(藤原重文)玉眼を使用した仏像では日本最古。

天長元年(824)淳和天皇の勅命で弘法大師が大和神社の神宮寺として創建、盛時には 48 坊、衆徒 300 余名を数えた。応仁の乱で松永久秀の兵火で焼ける。慶長 7 年(1602)徳川家康の庇護で復興した。

関西**花の寺** 25 ケ寺の 19 番霊場。

4 / 下 ~ 5 / 上ツツジ。5 月カキツバタ。11 月紅葉。

入山料 300 円、楼門(重文)の上部は平安時代の遺構、下層部は鎌倉、室町時代の様式を残している。写真が上手に撮れるとかで評判がある。

龍王山：585.7m二等三角点、山頂から奈良盆地が一望できる。

山頂に天文年間(1532 ~ 1555)大和の豪族、といちとおただ十市遠忠によって築かれた龍王山城がある。南城と北城の二つの城で一つの城郭をなす。北城は後で築かれ本丸跡は南城より大きい。また土塁、竪堀などが残っている。

奈良県では松永弾正久秀の信貴山城に次ぐ規模である。

【無念の落城】

松永弾正久秀方の武将秋山氏に意図も簡単に殆ど抵抗することなく明け渡したのは、久永の家来が城の東の藤井村で水源地を聞きだし、試しにレンゲの花を流しその行方を見定め城の水を絶ったら断水により永禄 11 年(1568)落城したという。

その後天理市藤井町ではレンゲの花に実がのらなくなり、花が咲かないこと

がある。

天正5年(1577)織田信長によって信貴山城で松永弾正が敗死、龍王山城も織田方に渡り翌年あえなく破却された。(実戦で一度も使用される事はなかった)

#### 【龍王山城の伝説】

昔、敵がこの城を攻め落とすため、長柄白鳥神社に陣取り、堅固な城なので水道をたつて落とそうとした。だが城方では水源の守りを猿にさせておいた。その猿はなかなかそこを敵に譲らないので、毎日えさを与えて欺き、ついに水道を断ってしまった。十市方もこれに困り、ついに釜の口まで下りて、最後の交戦をした。このとき足の裏に血がついて、血の足跡が今も残っていると言う。

雨が降りそうな夏の夜、龍王山に向かって『ほい、ほい』と二、三度叫ぶと城跡の方から火の玉が飛んできて「ジャン、ジャン」とうなりを立てて消え失せるといふ。これを見た者は三日三晩熱にうかされるので、この火をホイホイ火といって恐ろしがっている。

戦いに敗れた十市氏の恨みが残っているとか……

(天理柳本町)

城跡から出現し、西へ飛んでいく火の玉に遭遇した者は、橋の下などに隠れてやり過ごさなければならない。

(天理藤井町)

「ジャンジャン火」に襲われた武士が、刀を振り回し誤って斬ったという首斬地蔵がある。

(天理田井庄町)

【ジャンジャン火】: 大和各地に伝わる鬼火の一種、

じゃんじゃん音を立てることが名の由来。

人間の霊が火の玉に姿を変えたものとされる。各地によって別々の伝承がある。

龍王山古墳群：龍王山西斜面の標高 150～450mに点在する奈良県で最大規模の群集墳。円墳 300 基、横穴 300 基、合わせて 600 基に及ぶ 6～8 世紀にかけての古墳群。

柿本人麻呂：妻を葬った悲しみを詠んだ歌

ふすまぢ ひきで  
衾道を引手の山に 妹を置きて  
やまし  
山路行けば 生けりともなし

(引手の山 = 龍王山)

訳、引手の山に妻を葬り、衾道(衾田陵周辺)の山道を行くと  
生きているという気もしない

龍王社：龍王が潜むということで龍王山の山頂近くに祀られている。  
藤井田龍王社(東の地域)、柳本龍王社(西の地域)、の二つの水源を祀る。  
龍王山の名の由来でもある。

衾田陵：継体天皇の皇后手白香皇女(てしらかのひめみこ)の御陵とされているが。(宮内庁管理)  
古墳は3世紀後半のもの。手白香皇女は6世紀後半の人で年代があわない。  
したがって卑弥呼の次代を継いだ台代(とよ)の墓、又は垂仁天皇陵という説もある。